

下山清 しもやま せい 歌人。明治二十五年十月一日北海道北見國枝幸郡幸港  
生れ、昭和六年十一月十六日歿（一九三二）。久保シエの私生兒とし  
て生れ、幼いして聾し、兩眼亦失明、近き障害があつた。小學四年、満  
ちがず退くも、讀書力旺盛で、圖書館、知人の藏書と讀破、「萬葉集」、  
「古今集」を始め、伊藤左千夫、長塚節の歌に至るまで、その大方を  
諸人そとじたといふ。母の死後放浪、岩手縣下閉伊郡山田町に至つて一婦  
人白土キタ（喜久子）を知り、歿時までその世話を受けた。その間、  
みちのく社同人の小田島孤舟、關徳瀨（登久也）等と親交。また大  
正十一年には小島草歌（のち草火）と「膽寫版歌誌」の上の句（のち「牧  
草」と改題）を創刊し、野塚捨三の名で膽寫版歌集「野良人の如く」  
を作つた。他に歌集「わくら葉」（昭和六年八月十五頁岩手・白土喜  
久子刊、みちのく社）がある。

歿後二十年、再刻せられた「歌集わくら葉」（昭和二十六年七月二十  
頁岩手町教育委員会編刊）には、「岩手日報」等が執筆した評論、書  
翰集の他、諸家の追憶記、森庄巳池執筆「清の生涯」等附載。



歌集 わくら葉 岩手町教育委員会編

歌集 わくら葉 下山 清